

シーズ技術名

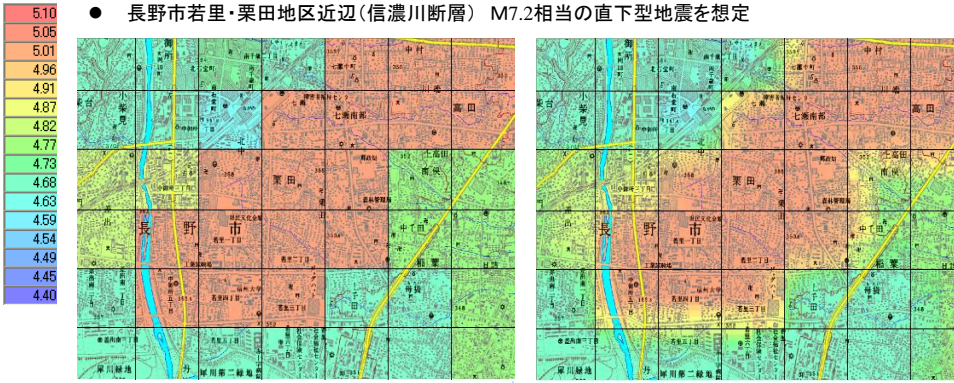
## 震度ハザードマップの作成と活用

### 設計用地震動算定システムによる詳細震度ハザードマップの作成

技術分野分類 22020：構造工学および地震工学関連

技術キーワード G：地震工学

産業分類 D：06 建設業・総合工事業

内 容	概 要	想定される巨大地震に対する地震動算定システムにより、対象地点の地表での地震動を高精度に解析することで、地域の詳細な震度ハザードマップを作成する。重要構造物の耐震性評価に際し、必要となる設計用地震波形の作成も可能。
	従来技術・ 競争技術 との比較 (優位性)	強震動予測法 EMPR と地盤震動解析 (FDEL) は、岐阜大学と共同開発した独自技術。また、長野高専で独自に開発した補間推定法により、高精細なハザードマップの作成が可能。(下図参照)
	本技術の 有用性	地域の地盤特性を考慮した設計用地震波や、地盤震動解析プログラムの提供が可能です。
関連情報 (図・表・写真等)		<p>●震度ハザードマップの例</p> <p>● 長野市若里・栗田地区近辺(信濃川断層) M7.2相当の直下型地震を想定</p>  <p>従来法でのハザードマップ → 補間推定法でのハザードマップ</p>
適用可能製品		震度ハザードマップは、自治体における防災マップ、企業におけるBCP 策定の基礎資料となる他、時刻歴地震動波形は耐震設計用の入力波形として欠かせない。
技術 シーズ 保有者	氏名 所属・役職	古本吉倫 環境都市工学科 教授
技術 シーズ 照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	地域共同テクノセンター 026-295-7117 / 026-295-7124 nrtc727@nagano-nct.ac.jp

■知的財産 特願 2011-123262、地震動予測法及び地震動マップの制作方法、古本吉倫

■試作品状況 無 提示可 提供可

作成日 2018年11月16日